

2025年度の生乳及び牛乳乳製品の需給 見通しと課題について

2025年5月30日



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)

本見通しの趣旨

本見通しは、ARIMA モデル（短期予測モデル）から得られた推計値ならびに関係者からのヒアリング等に基づき算出したものであり、酪農乳業界としての需給に係る課題を抽出し、その課題対応の取り組みや検討の協議に資することを目的としている。

※業界としての今後の需要拡大に係る取り組み等、現時点で推計したり、成果を見通したりすることが困難な要素については加味していない。

本見通しの前提

1. 生乳生産予測（P 3～4 の説明）

- (1) 北海道及び都府県の予測値は、2025 年 3 月までの生乳生産量データに基づき、累積気温や乳牛頭数（搾乳牛頭数・妊娠頭数）等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。なお、2025 年度の夏場の気温は、「猛暑」で試算した。
- (2) 要因変数として採用している搾乳牛頭数は、家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節当月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について、前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求めて推計。妊娠頭数は、授精頭数及び累積気温等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルにより推計（AR による推計）。

2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数（P 5～6 の説明）

家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求め推計。出生頭数（実績）は家畜改良センターの乳用雌牛頭数（速報値）をまとめた。

3. 牛乳等生産量予測（P 7～9 の説明）

各々の予測値は、2025 年 3 月までの生産量データに基づき、人口、価格、累積気温、平日日数等の要因変数、ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。さらに、直近の小売 P O S データで確認された変化動向等も考慮した。なお、2025 年度の夏場の気温は、「猛暑」で試算した。

4. 用途別処理量予測（P 10～12 の説明）

- (1) 生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出。
- (2) 自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定。
- (3) 飲用等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、最近の生乳使用係数を乗じ算出。

5. 脱脂粉乳・バター需給予測（P 13～14 の説明）

- (1) 脱脂粉乳・バターの生産量は、脱脂粉乳・バター等向処理予測数量に、直近の動向等を反映した製造係数（これらの製品単位あたりに実際に使用された生乳数量）を乗じて算出。
- (2) 脱脂粉乳・バターの推定出回り量は、2025 年 3 月までの推定出回り量データに基づき、発酵乳の動向等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。
- (3) 脱脂粉乳・バターの在庫月数は、直近 1 年間の出回り量実績の 1 ヶ月平均を基に算出。

6. 都府県生乳需給予測 (P15の説明)

- (1)「移入必要量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- (2)「脱脂粉乳・バター等仕向処理量」は、「A-B-C」+「移入量」-「移出量」で算出。過去5年間の最低数量や直近の需給状況並びに北海道における脱脂粉乳・バター等仕向の処理能力を加味して算出。

※生乳取引価格引き上げに伴う牛乳・乳製品価格改定の影響について

本見通しでは、2025年6月からの乳製品向け生乳取引価格引き上げ、2025年8月からの飲用等向け生乳取引価格引き上げに伴う製品価格改定による需要の減少について、牛乳乳製品の価格と需要の相関を企業物価指数と販売記録データ(POSデータ)、牛乳乳製品統計などを用いて検討し、ARIMAモデルで予測した。

企業物価指数の飲料または食料全体に対する各カテゴリの相対価格指数を算出し、製品価格が下表のとおり改定したときの需要量を予測した。

※企業物価指数

日本銀行公表。企業間で取引される財を対象としている。品質を固定した商品(財)の価格を継続的に調査し、現在時点の価格を、基準時点(2020年)の価格を100として指数化したもの。企業間で行き交わされる商品の価格を指数化した物価指数のこと。

※参考 価格改定率

	価格改定率
牛乳	+6%
加工乳	+6%
成分調整牛乳	+6%
乳飲料	+6%
はっ酵乳	+6%
チーズ向	+4%
生クリーム等向	+10%
脱脂粉乳(出回り)	+3%
バター(出回り)	+10%

1. 地域別生乳生産量の動向

表1-1：2024年度の地域別生乳生産量（網掛け：実績）

（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	635	101.1%	356	101.9%	280	100.1%
5 月	656	101.0%	371	101.3%	284	100.6%
6 月	616	99.5%	352	98.9%	264	100.3%
7 月	606	98.3%	356	99.1%	251	97.2%
8 月	592	100.3%	352	102.7%	240	97.0%
9 月	579	101.0%	344	103.5%	235	97.6%
10 月	606	101.4%	354	103.4%	252	98.7%
11 月	589	101.8%	341	103.3%	248	99.7%
12 月	616	101.2%	357	103.0%	259	98.8%
1 月	632	101.9%	365	103.9%	267	99.2%
2 月	583	98.2%	337	100.3%	247	95.4%
3 月	661	102.3%	379	104.5%	282	99.6%
第1 四半期	1,907	100.5%	1,079	100.7%	828	100.3%
第2 四半期	1,778	99.9%	1,052	101.7%	726	97.3%
第3 四半期	1,811	101.4%	1,052	103.2%	759	99.1%
第4 四半期	1,877	100.9%	1,081	103.0%	796	98.1%
上期	3,685	100.2%	2,131	101.2%	1,554	98.9%
下期	3,688	101.1%	2,133	103.1%	1,555	98.6%
年度計	7,373	100.7%	4,264	102.1%	3,109	98.7%

表1-2：2025年度の地域別生乳生産量（見通し）

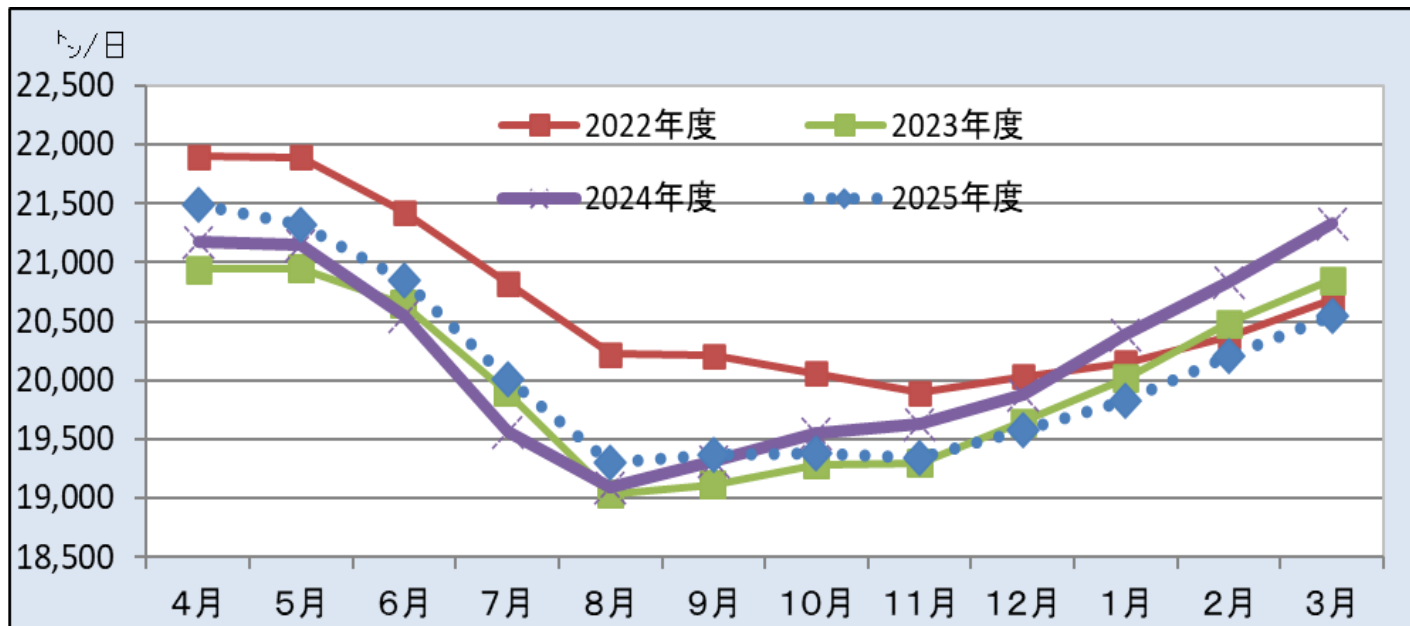
（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	645	101.5%	366	102.9%	279	99.7%
5 月	661	100.8%	380	102.4%	281	98.7%
6 月	625	101.5%	366	103.9%	260	98.3%
7 月	620	102.2%	370	104.1%	250	99.7%
8 月	598	101.1%	359	101.9%	239	99.8%
9 月	581	100.3%	345	100.4%	235	100.1%
10 月	601	99.1%	353	99.7%	247	98.2%
11 月	580	98.5%	339	99.4%	241	97.3%
12 月	607	98.5%	354	99.2%	253	97.5%
1 月	615	97.2%	357	97.6%	258	96.7%
2 月	566	97.0%	327	97.1%	239	96.7%
3 月	637	96.3%	366	96.4%	271	96.1%
第1 四半期	1,931	101.3%	1,112	103.1%	819	98.9%
第2 四半期	1,799	101.2%	1,075	102.2%	725	99.9%
第3 四半期	1,788	98.7%	1,046	99.4%	742	97.7%
第4 四半期	1,817	96.8%	1,049	97.0%	768	96.5%
上期	3,730	101.2%	2,186	102.6%	1,544	99.3%
下期	3,605	97.7%	2,095	98.2%	1,510	97.1%
年度計	7,335	99.5%	4,282	100.4%	3,053	98.2%

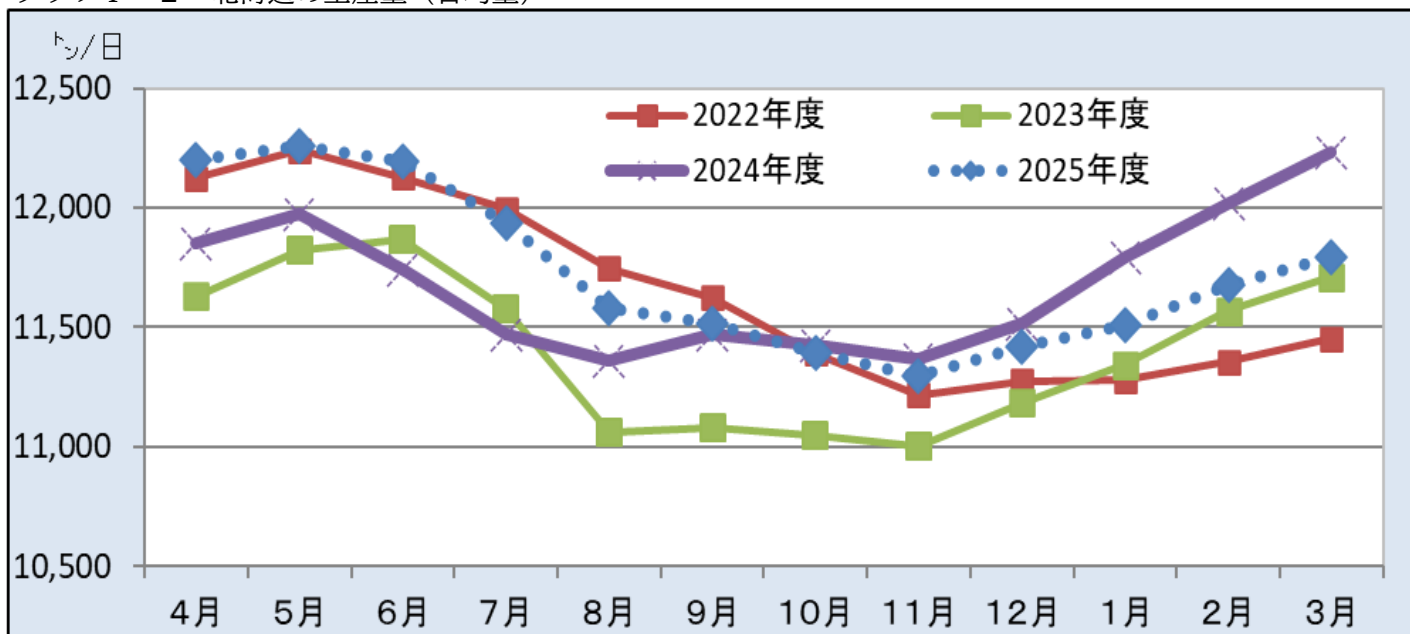
【2025年度生乳生産の見通し】 全国7,335千トン・前年比99.5%、北海道4,282千トン・同100.4%、都府県3,053千トン・同98.2%の見通し。都府県は4年連続の減産、北海道は2年連続の増産、全国は2年ぶりの減産となる見込み。

【前回見通し(1/31)公表】 全国7,288千トン・前年比99.2%、北海道4,234千トン・同99.8%、都府県3,054千トン・同98.3%。

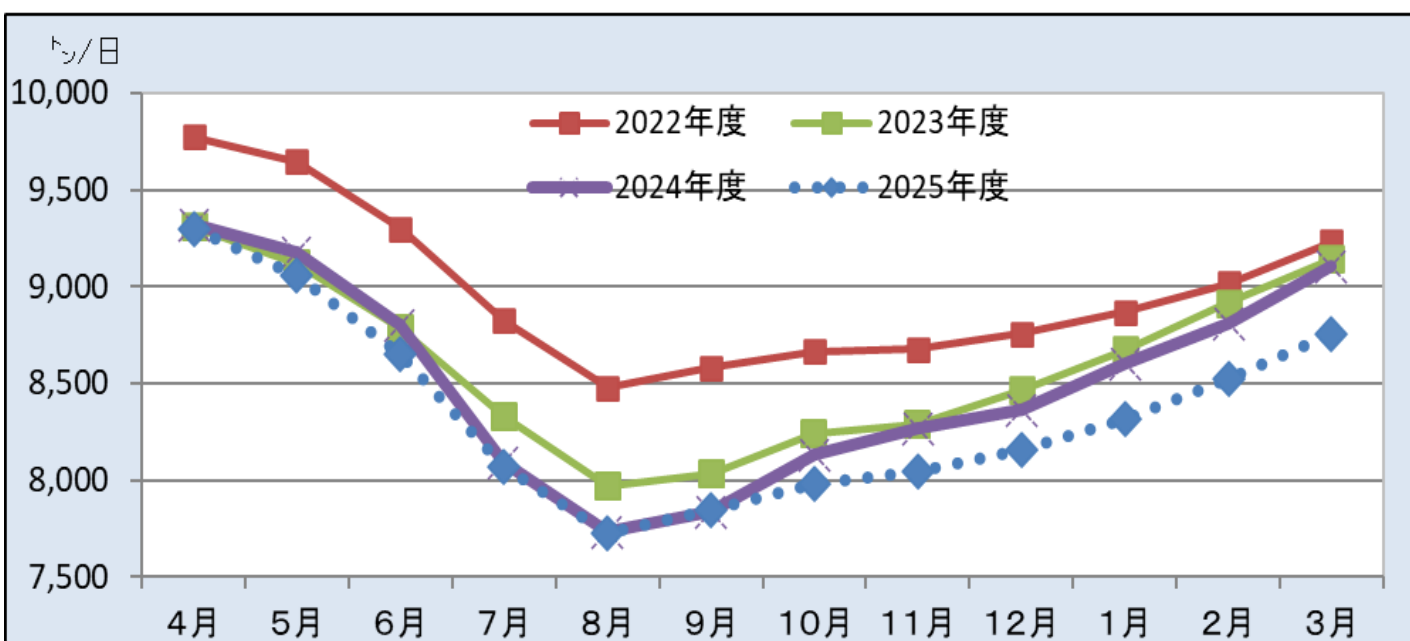
グラフ１－１：全国の生産量（日均量）



グラフ１－２：北海道の生産量（日均量）

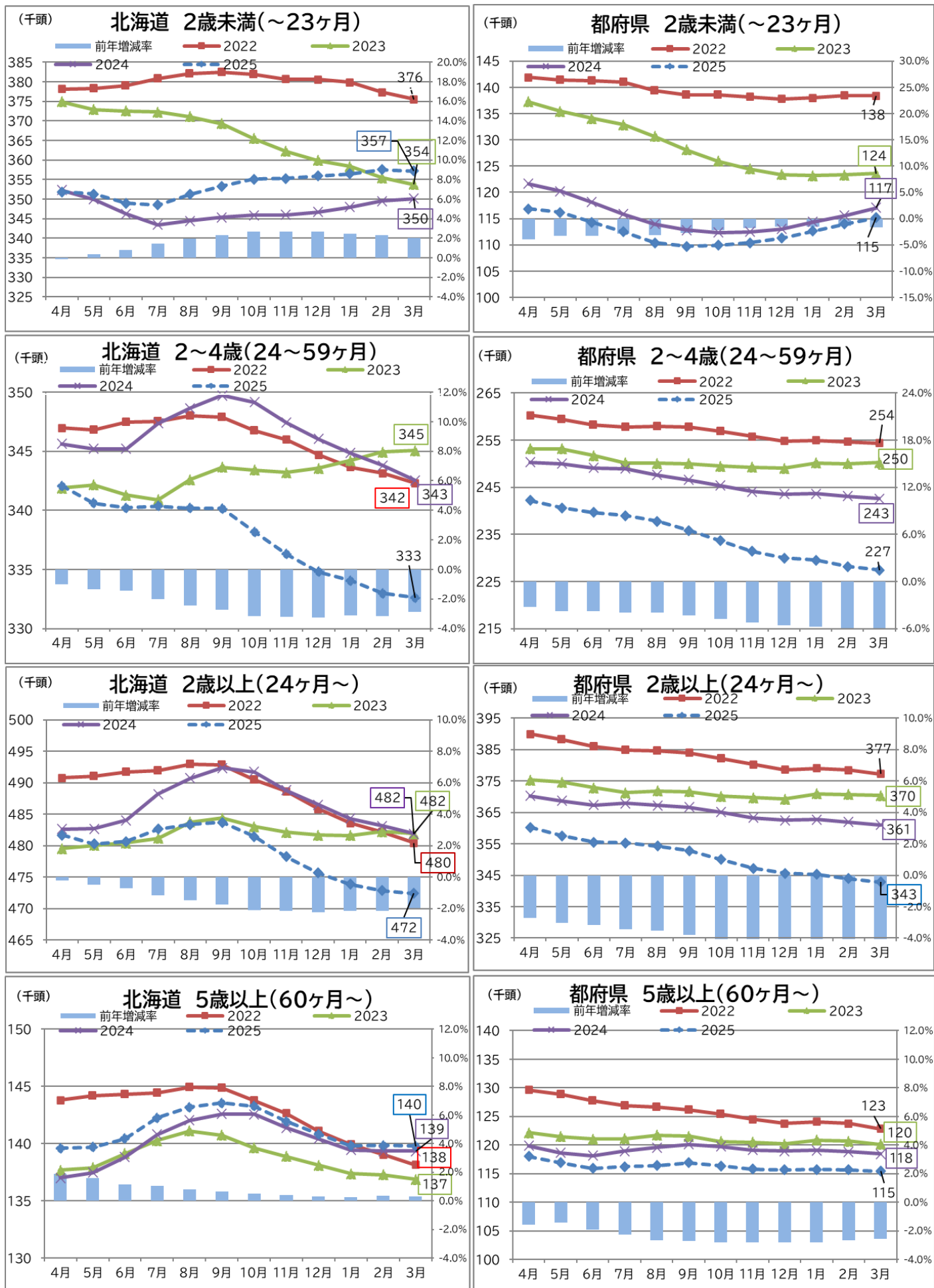


グラフ１－３：都府県の生産量（日均量）

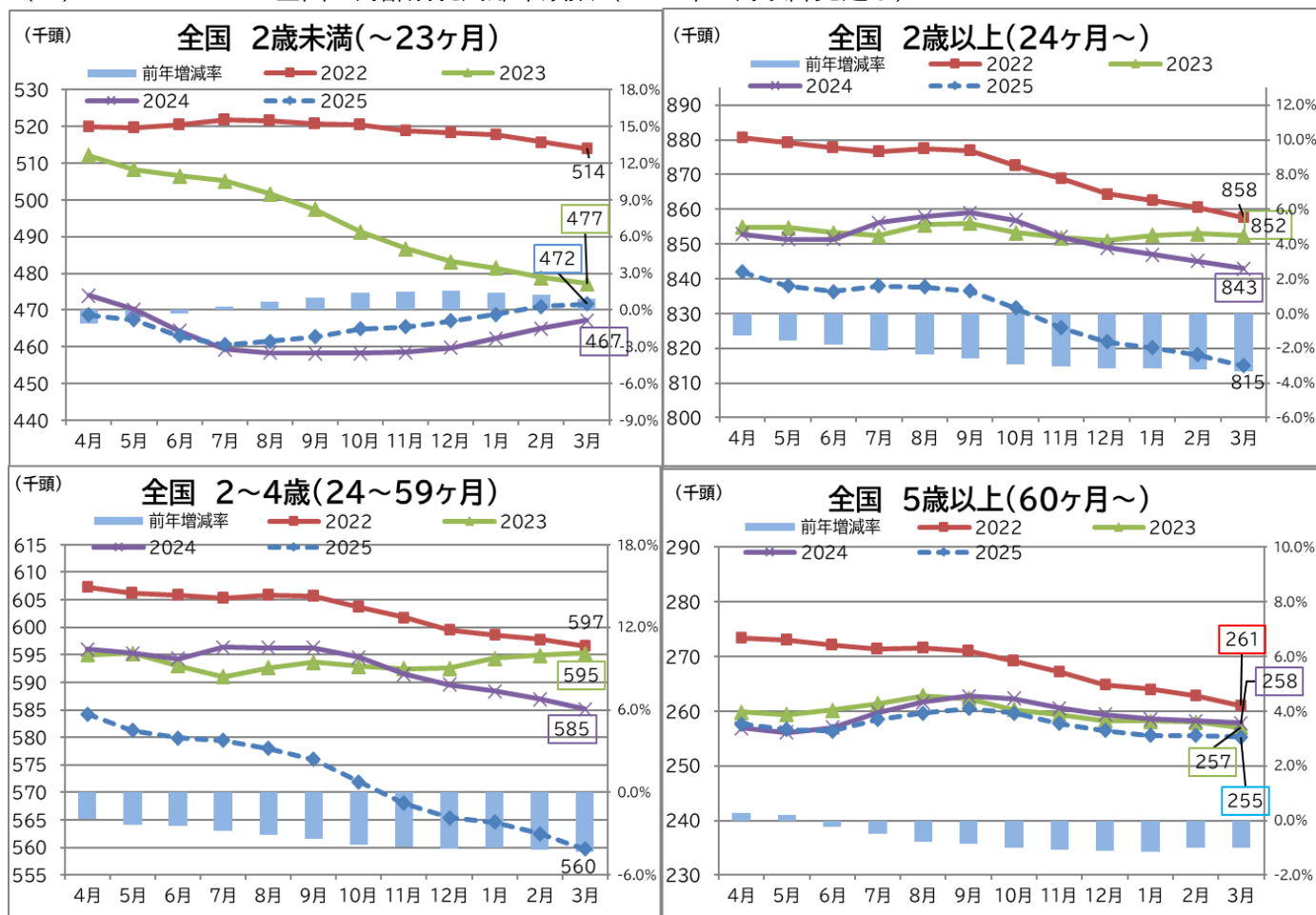


2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数

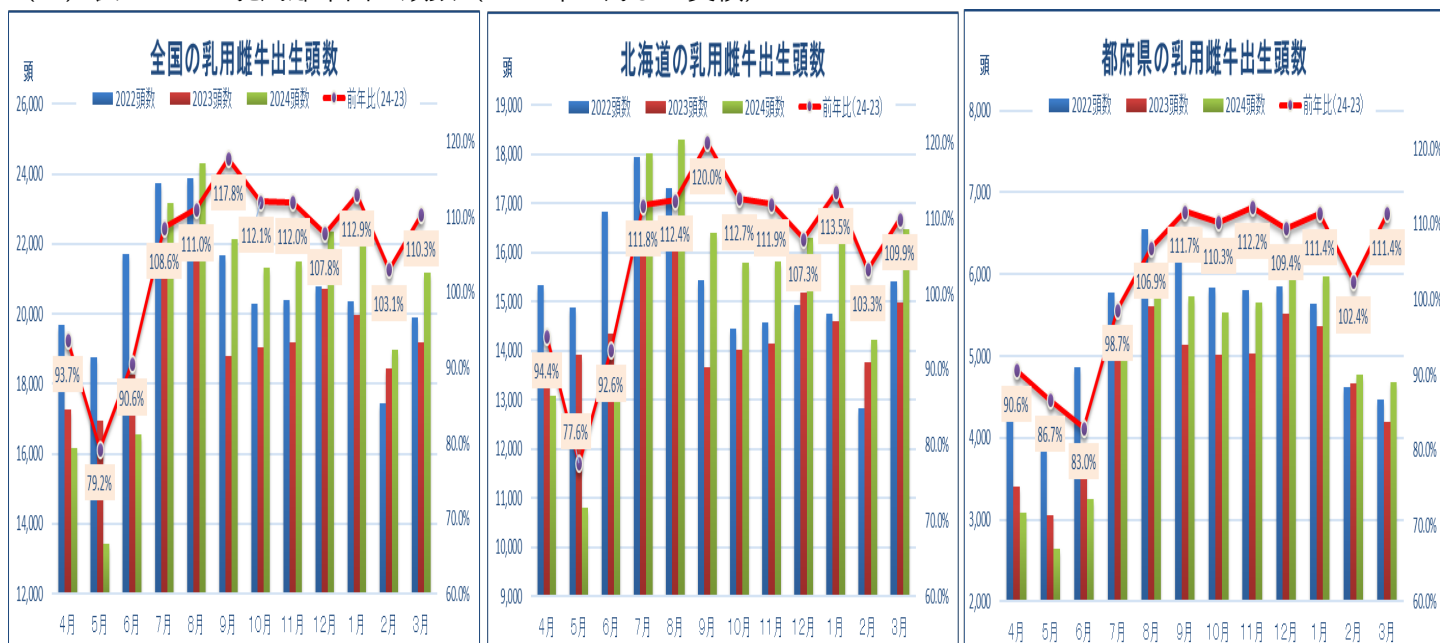
(1) グラフ2-1：北海道と都府県の月齢別乳用雌牛頭数（2025年4月以降見通し）



(2) グラフ2-2：全国の月齢別乳用雌牛頭数（2025年4月以降見通し）



(3) 表2-3：乳用雌牛出生頭数（2025年3月まで実績）



【2025年度の乳用雌牛頭数について】

- ・2歳未満頭数(3月末時点)は、北海道で約7千頭増加する一方、都府県で約2千頭減少する見通し。搾乳牛となる2歳以上頭数(3月末時点)は、北海道で約1万頭、都府県で約18千頭減少する見通し。北海道では、主力となる2～4歳頭数が10月以降大きく減少する見通し。
- ・2024年度の乳用雌牛出生頭数実績(4-3月累計)は、北海道は前年比105.8%、都府県は同104.2%、全国では105.4%といずれも前年を上回って推移している。

3. 牛乳等生産量の動向

表3-1：2024年度の牛乳等生産量（網掛け：実績）

(千kl)

	牛乳類		牛乳		学乳		学乳以外		うち、業務用		うち、業務用以外		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
4月	363	98.0%	250	98.7%	26	99.0%	224	98.6%	22	97.6%	201	98.8%	12	102.5%	18	91.8%	83	96.9%	87	104.8%
5月	383	97.5%	264	98.2%	35	100.4%	229	97.9%	21	96.1%	208	98.1%	12	104.7%	19	90.5%	88	96.1%	90	104.9%
6月	380	98.1%	265	99.9%	36	97.1%	229	100.3%	20	104.8%	209	99.9%	10	97.2%	18	90.9%	86	94.7%	86	99.8%
7月	383	96.6%	261	97.9%	23	101.1%	238	97.6%	21	100.8%	217	97.3%	11	103.9%	19	88.2%	92	94.0%	90	103.5%
8月	372	96.4%	248	99.7%	5	83.1%	243	100.2%	22	100.0%	221	100.2%	12	101.8%	19	89.9%	93	89.2%	88	104.9%
9月	390	98.0%	270	99.9%	33	96.1%	236	100.5%	23	104.1%	213	100.1%	12	99.9%	18	88.3%	91	94.6%	86	101.3%
10月	398	99.8%	274	100.9%	37	101.7%	238	100.8%	25	100.7%	212	100.8%	13	98.8%	18	93.4%	92	98.1%	89	106.6%
11月	368	99.4%	258	101.2%	34	100.4%	224	101.3%	25	101.2%	198	101.3%	14	103.5%	17	93.1%	80	94.7%	85	109.0%
12月	354	99.0%	247	100.3%	28	104.0%	220	99.9%	25	96.4%	195	100.3%	14	99.8%	17	92.5%	76	96.0%	82	109.5%
1月	357	99.3%	250	100.4%	30	99.2%	221	100.6%	21	99.2%	200	100.7%	13	106.8%	17	95.1%	77	95.8%	88	112.5%
2月	333	96.0%	237	97.9%	32	95.5%	205	98.3%	21	97.1%	184	98.5%	12	100.4%	16	90.8%	68	90.3%	80	103.4%
3月	355	99.4%	247	100.9%	21	102.4%	225	100.8%	23	100.4%	202	100.8%	12	94.9%	17	94.4%	79	96.5%	88	103.7%
第1四半期	1,126	97.9%	779	98.9%	98	98.8%	682	98.9%	64	99.2%	618	98.9%	35	101.6%	55	91.1%	257	95.9%	263	103.1%
第2四半期	1,145	97.0%	779	99.2%	61	96.6%	718	99.4%	67	101.7%	651	99.2%	34	101.8%	56	88.8%	276	92.5%	264	103.2%
第3四半期	1,120	99.4%	779	100.8%	98	101.9%	681	100.7%	75	99.4%	605	100.8%	41	100.7%	52	93.0%	248	96.3%	256	108.3%
第4四半期	1,045	98.3%	734	99.8%	83	98.5%	652	99.9%	66	98.9%	586	100.0%	37	100.6%	50	93.5%	224	94.3%	256	106.5%
上期	2,272	97.4%	1,558	99.1%	159	97.9%	1,399	99.2%	131	100.5%	1,269	99.0%	69	101.7%	111	89.9%	533	94.1%	527	103.2%
下期	2,165	98.8%	1,513	100.3%	181	100.3%	1,332	100.3%	141	99.2%	1,191	100.4%	78	100.6%	102	93.2%	472	95.3%	513	107.4%
年度計	4,437	98.1%	3,072	99.7%	340	99.2%	2,732	99.7%	272	99.8%	2,460	99.7%	148	101.1%	213	91.5%	1,005	94.7%	1,040	105.2%

表3-2：2025年度の牛乳等生産量（見通し）

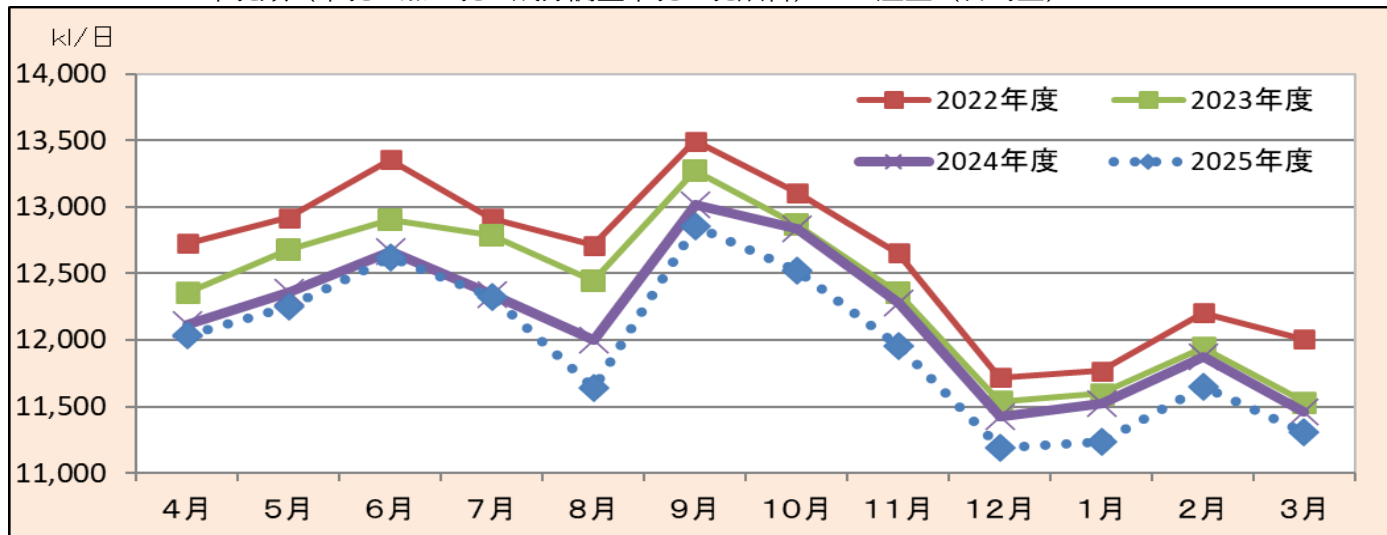
(千kl)

	牛乳類		牛乳		学乳		学乳以外		うち、業務用		うち、業務用以外		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
4月	361	99.3%	250	100.1%	27	101.0%	223	100.0%	23	102.5%	201	99.7%	11	93.9%	17	93.8%	83	99.0%	88	100.5%
5月	380	99.1%	265	100.4%	35	99.0%	231	100.6%	21	100.4%	209	100.6%	12	95.1%	18	98.9%	84	96.0%	93	102.6%
6月	379	99.7%	265	100.1%	37	102.8%	228	99.6%	20	99.2%	208	99.7%	11	103.8%	19	101.1%	84	97.7%	91	105.5%
7月	382	99.8%	262	100.3%	23	103.6%	238	100.0%	21	98.8%	218	100.1%	11	103.3%	20	104.5%	89	97.1%	92	102.2%
8月	361	97.0%	241	97.0%	6	109.4%	235	96.8%	22	97.8%	214	96.7%	12	100.4%	19	101.6%	89	95.4%	86	97.7%
9月	386	98.8%	267	99.1%	34	101.9%	233	98.7%	23	100.1%	210	98.6%	11	96.7%	19	103.7%	88	96.9%	86	100.3%
10月	388	97.6%	271	98.9%	36	99.3%	235	98.8%	25	98.9%	210	98.8%	13	99.9%	17	92.2%	87	94.3%	88	99.0%
11月	359	97.4%	253	98.2%	32	94.4%	221	98.8%	25	98.3%	196	98.8%	13	94.1%	15	89.9%	77	96.8%	81	95.3%
12月	347	98.0%	245	99.0%	28	100.8%	217	98.8%	24	98.1%	193	98.9%	14	95.0%	15	89.1%	74	97.1%	80	97.1%
1月	348	97.5%	247	98.6%	29	98.6%	218	98.6%	21	98.8%	197	98.6%	12	95.3%	15	88.7%	74	96.1%	84	95.1%
2月	326	98.1%	234	98.6%	32	99.7%	202	98.5%	20	95.2%	182	98.8%	11	97.3%	14	91.5%	67	98.0%	80	100.1%
3月	351	98.7%	245	99.3%	22	102.6%	223	99.0%	23	99.4%	200	98.9%	13	101.5%	16	91.0%	77	98.0%	91	102.9%
第1四半期	1,120	99.4%	781	100.2%	99	100.9%	682	100.1%	65	100.7%	618	100.0%	34	97.3%	54	98.0%	251	97.6%	271	102.8%
第2四半期	1,128	98.5%	770	98.9%	63	103.2%	707	98.5%	66	98.9%	641	98.4%	34	100.0%	58	103.3%	266	96.5%	264	100.1%
第3四半期	1,094	97.6%	769	98.7%	97	98.0%	673	98.8%	74	98.4%	598	98.9%	39	96.3%	47	90.4%	238	96.0%	249	97.2%
第4四半期	1,025	98.1%	726	98.8%	83	100.0%	643	98.7%	64	97.9%	579	98.8%	36	98.0%	45	90.4%	218	97.3%	255	99.3%
上期	2,248	99.0%	1,551	99.5%	162	101.8%	1,389	99.3%	130	99.8%	1,259	99.2%	68	98.7%	112	100.6%	517	97.0%	535	101.5%
下期	2,119	97.9%	1,495	98.8%	179	98.9%	1,316	98.8%	138	98.2%	1,177	98.8%	76	97.1%	92	90.4%	456	96.6%	504	98.3%
年度計	4,367	98.4%	3,046	99.1%	341	100.3%	2,705	99.0%	269	99.0%	2,436	99.0%	144	97.8%	204	95.8%	973	96.8%	1,039	99.9%

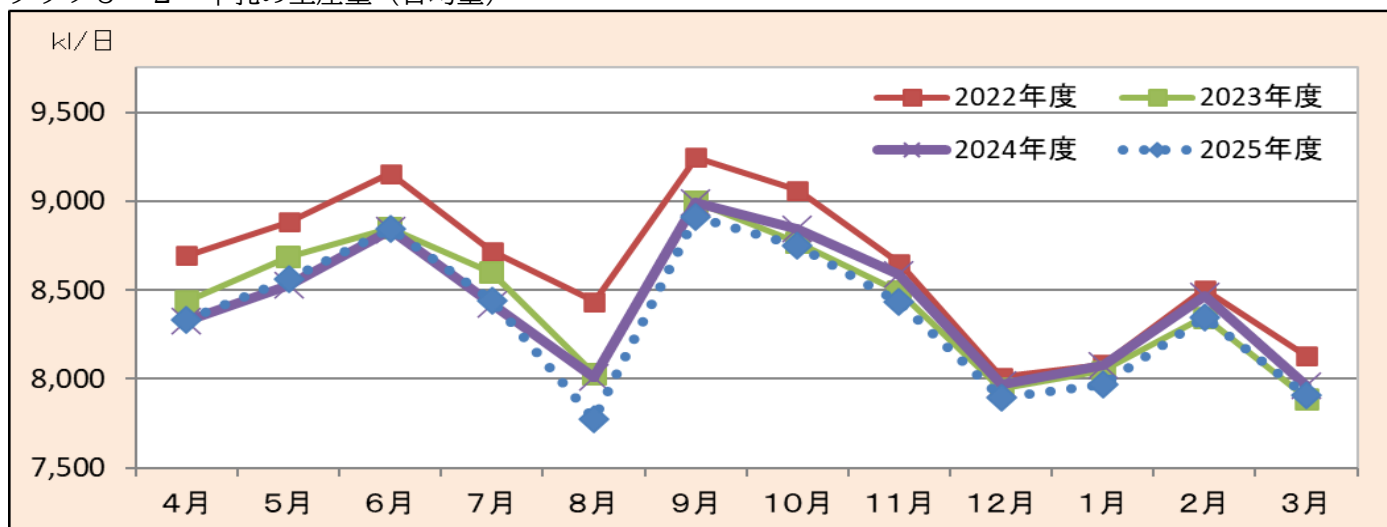
【2025年度の牛乳等生産量の見通し】 牛乳類は4,367千kl・前年比98.4%。内訳として、牛乳3,046千kl・同99.1%、加工乳144千kl・同97.8%、成分調整牛乳204千kl・同95.8%、乳飲料973千kl・同96.8%。はっ酵乳1,039千kl・同99.9%の見通し。

【前回見通し(1/31)公表】 牛乳類は4,458千kl・前年比100.0%。内訳として、牛乳3,096千kl・同100.6%、加工乳150千kl・同100.8%、成分調整牛乳205千kl・同96.8%、乳飲料1,007千kl・同98.8%。はっ酵乳は、1,051千kl・同100.7%。

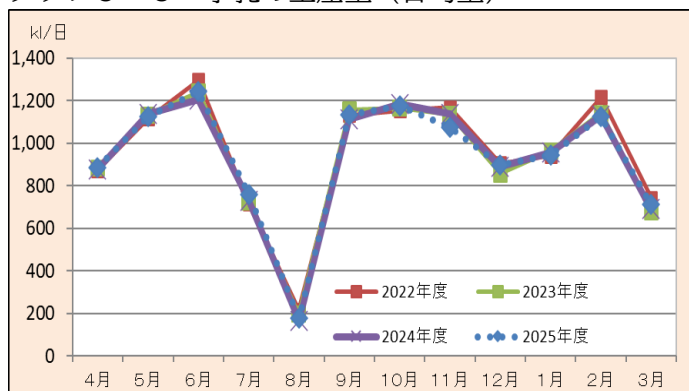
グラフ 3-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



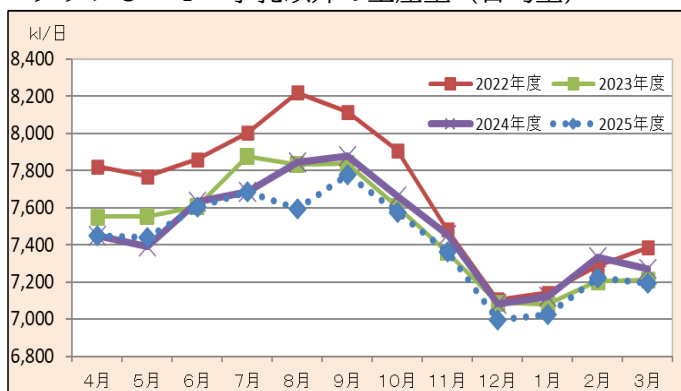
グラフ 3-2：牛乳の生産量（日均量）



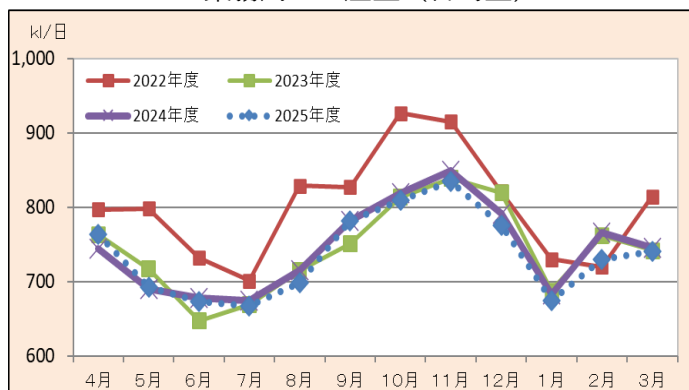
グラフ 3-3：学乳の生産量（日均量）



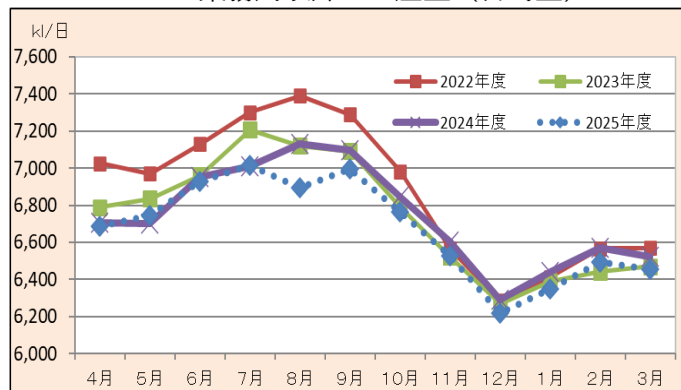
グラフ 3-4：学乳以外の生産量（日均量）



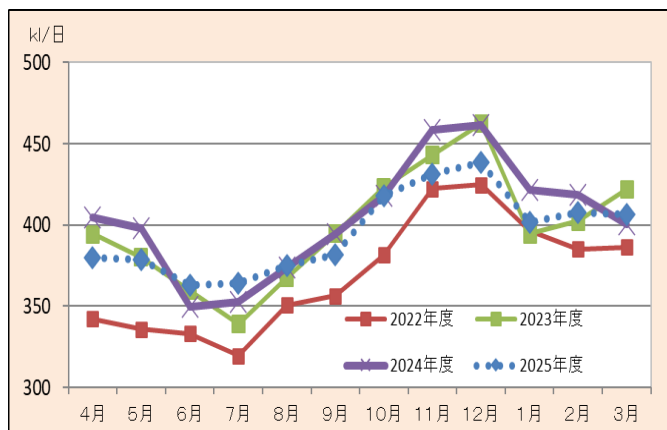
グラフ 3-5：業務用の生産量（日均量）



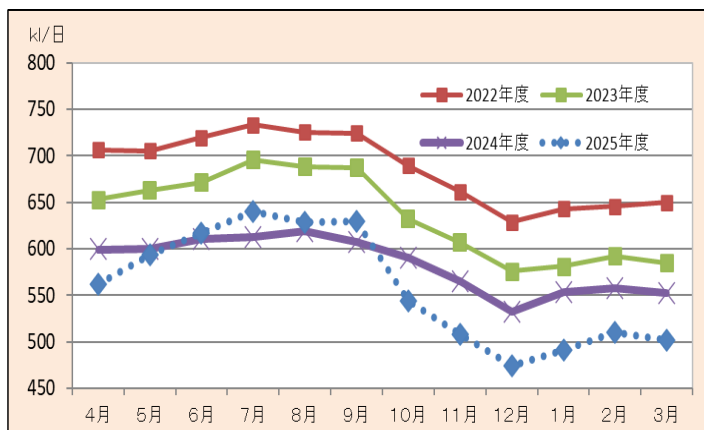
グラフ 3-6：業務用以外の生産量（日均量）



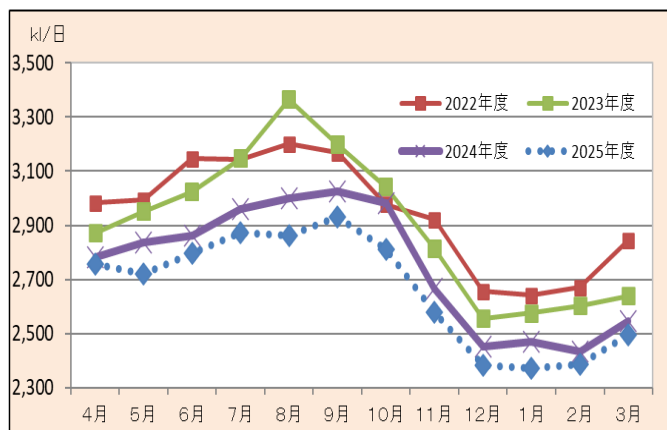
グラフ３－７：加工乳の生産量（日均量）



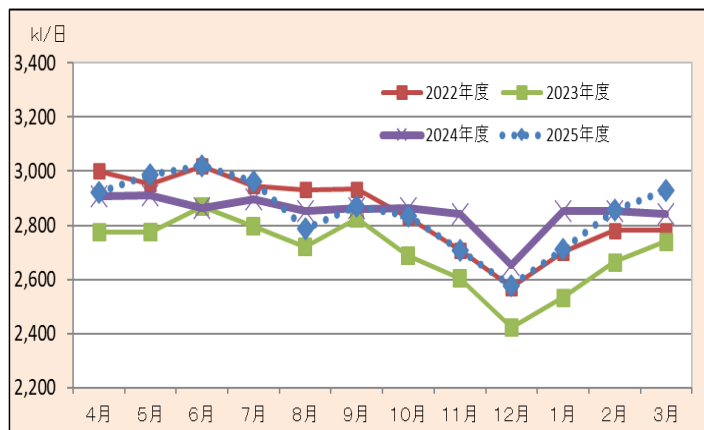
グラフ３－８：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ３－９：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ３－１０：はっ酵乳の生産量（日均量）



4. 用途別処理量の動向

表4-1：2024年度の生乳供給量及び用途別処理量（網掛け：実績）

（千トン）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 （認定ベース）		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	635	101.1%	4	100.5%	631	101.1%	316	98.3%	315	104.1%	176	107.8%	38	97.6%	102	100.6%
5月	656	101.0%	4	105.2%	651	101.0%	335	98.5%	317	103.7%	175	105.4%	39	102.5%	102	101.3%
6月	616	99.5%	4	94.0%	612	99.5%	337	99.8%	276	99.2%	136	94.6%	39	109.7%	101	102.1%
7月	606	98.3%	4	107.7%	602	98.2%	331	97.4%	272	99.3%	131	98.1%	35	92.5%	106	103.3%
8月	592	100.3%	4	99.8%	588	100.3%	320	99.6%	268	101.2%	131	102.1%	35	100.7%	102	100.4%
9月	579	101.0%	4	96.8%	576	101.1%	335	98.6%	240	104.7%	111	120.4%	28	87.4%	101	96.2%
10月	606	101.4%	4	109.2%	602	101.3%	344	100.5%	258	102.5%	123	109.7%	33	95.6%	103	97.0%
11月	589	101.8%	4	96.4%	585	101.8%	322	101.3%	263	102.4%	124	106.0%	33	100.5%	105	99.1%
12月	616	101.2%	3	91.3%	613	101.2%	308	100.2%	305	102.3%	166	102.4%	37	103.5%	102	101.8%
1月	632	101.9%	4	80.2%	629	102.0%	316	100.6%	312	103.5%	174	104.9%	37	99.2%	102	102.6%
2月	583	98.2%	4	85.6%	580	98.3%	298	97.5%	282	99.1%	154	100.2%	34	99.2%	95	97.4%
3月	661	102.3%	4	90.8%	658	102.4%	319	102.0%	339	102.8%	196	104.6%	38	100.0%	105	100.4%
第1四半期	1,907	100.5%	12	99.9%	1,895	100.6%	987	98.9%	908	102.4%	487	102.9%	116	103.1%	305	101.3%
第2四半期	1,778	99.9%	12	101.3%	1,766	99.8%	986	98.5%	780	101.6%	373	105.3%	98	93.7%	309	99.9%
第3四半期	1,811	101.4%	11	98.8%	1,800	101.5%	974	100.7%	826	102.4%	414	105.6%	102	99.9%	310	99.2%
第4四半期	1,877	100.9%	11	85.3%	1,866	101.0%	933	100.1%	933	101.9%	523	103.4%	108	99.5%	302	100.2%
上期	3,685	100.2%	24	100.6%	3,661	100.2%	1,973	98.7%	1,688	102.0%	860	103.9%	214	98.5%	614	100.6%
下期	3,688	101.1%	22	91.7%	3,667	101.2%	1,907	100.4%	1,759	102.1%	937	104.3%	211	99.7%	612	99.7%
年度計	7,373	100.7%	45	96.1%	7,328	100.7%	3,881	99.5%	3,447	102.1%	1,797	104.1%	424	99.1%	1,226	100.2%

表4-2：2025年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

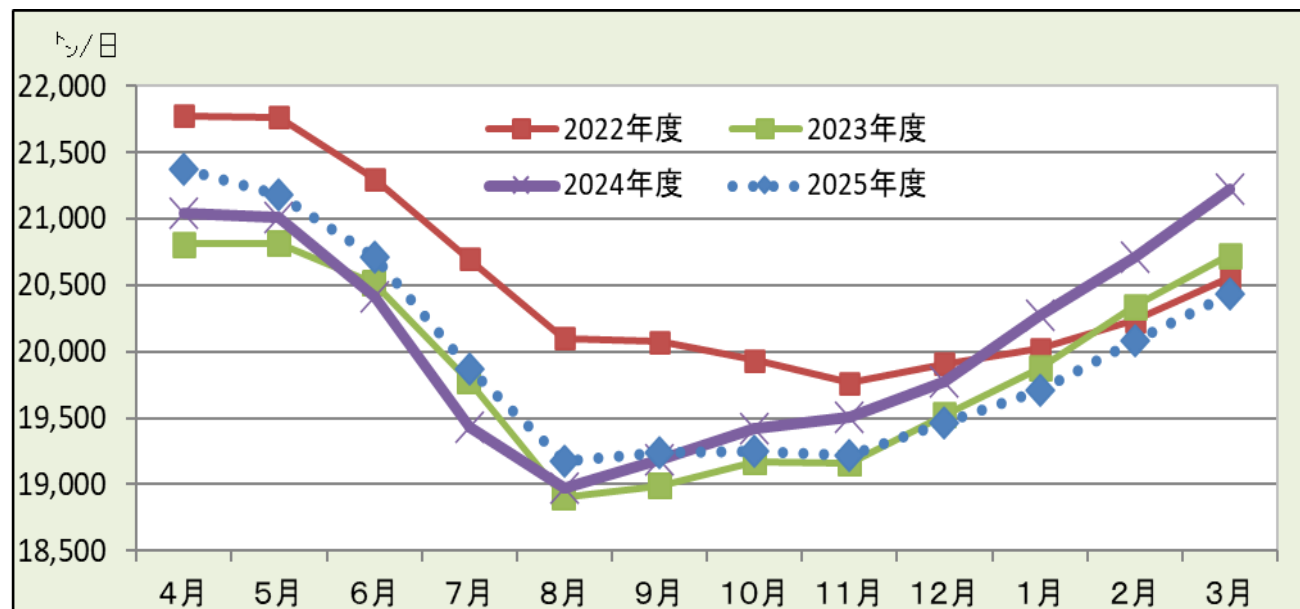
（千トン）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 （認定ベース）		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	645	101.5%	4	90.9%	641	101.6%	317	100.3%	324	102.8%	184	105.0%	39	103.4%	101	98.9%
5月	661	100.8%	4	100.4%	657	100.8%	335	100.2%	321	101.5%	179	102.3%	39	100.3%	103	100.4%
6月	625	101.5%	4	100.8%	621	101.5%	338	100.3%	284	102.9%	146	107.0%	39	100.2%	99	98.3%
7月	620	102.2%	4	101.6%	616	102.3%	332	100.5%	284	104.4%	144	109.8%	36	104.1%	104	97.8%
8月	598	101.1%	4	100.7%	594	101.1%	312	97.3%	283	105.6%	148	112.9%	35	99.4%	100	98.3%
9月	581	100.3%	4	100.0%	577	100.3%	333	99.3%	244	101.6%	114	102.8%	30	106.2%	100	98.9%
10月	601	99.1%	4	98.6%	597	99.1%	338	98.3%	259	100.1%	124	100.8%	32	98.0%	103	99.9%
11月	580	98.5%	4	98.0%	577	98.5%	314	97.5%	262	99.7%	126	101.7%	31	94.8%	104	99.0%
12月	607	98.5%	3	98.1%	604	98.5%	302	98.3%	301	98.7%	166	99.7%	34	93.1%	101	99.2%
1月	615	97.2%	3	96.8%	611	97.2%	309	97.8%	302	96.6%	168	96.7%	35	96.2%	99	96.7%
2月	566	97.0%	3	96.5%	562	97.0%	293	98.3%	269	95.6%	145	94.2%	33	96.9%	92	97.3%
3月	637	96.3%	3	95.9%	633	96.3%	316	99.0%	318	93.7%	177	90.4%	37	96.4%	104	99.0%
第1四半期	1,931	101.3%	12	97.4%	1,919	101.3%	990	100.3%	930	102.4%	509	104.6%	117	101.3%	303	99.2%
第2四半期	1,799	101.2%	12	100.8%	1,788	101.2%	977	99.1%	811	103.9%	406	108.8%	101	103.0%	304	98.3%
第3四半期	1,788	98.7%	11	98.3%	1,777	98.7%	955	98.0%	822	99.5%	416	100.6%	97	95.2%	308	99.4%
第4四半期	1,817	96.8%	10	96.4%	1,807	96.8%	918	98.4%	889	95.3%	490	93.6%	104	96.5%	295	97.7%
上期	3,730	101.2%	23	99.1%	3,707	101.2%	1,967	99.7%	1,740	103.1%	915	106.4%	218	102.1%	606	98.8%
下期	3,605	97.7%	21	97.4%	3,584	97.7%	1,873	98.2%	1,711	97.2%	906	96.7%	202	95.9%	603	98.6%
年度計	7,335	99.5%	45	98.3%	7,291	99.5%	3,840	98.9%	3,451	100.1%	1,821	101.4%	420	99.0%	1,209	98.7%

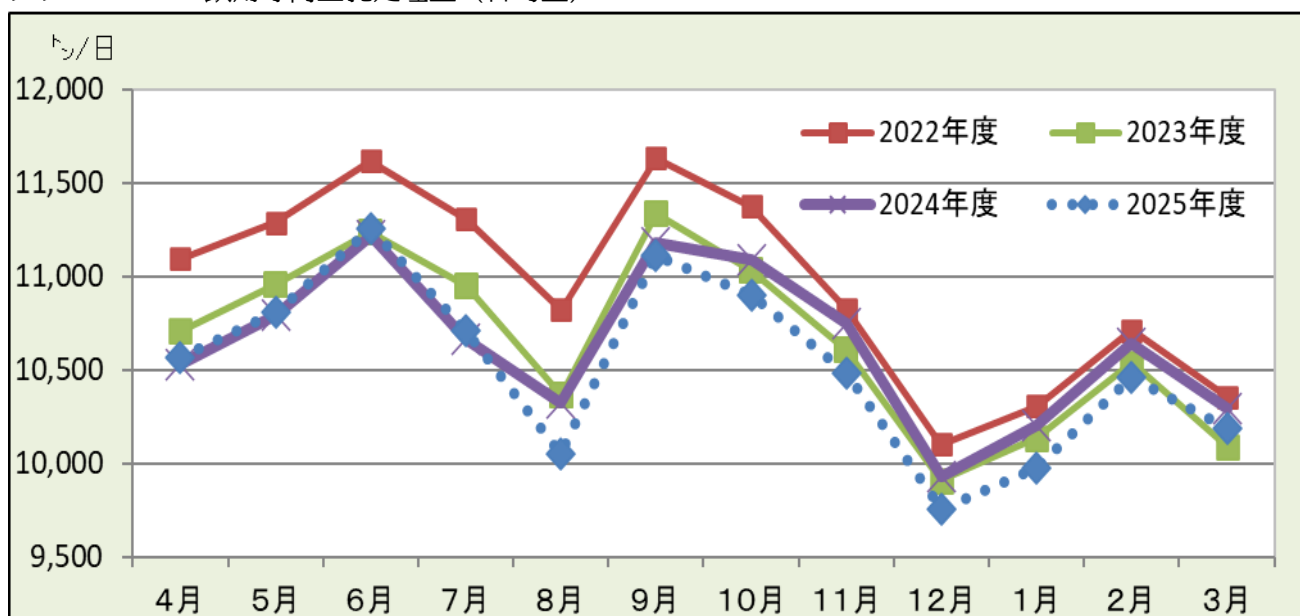
【2025年度の用途別処理量の見通し】 生乳供給量は7,291千トン・前年比99.5%、飲用等向処理量は3,840千トン・同98.9%、乳製品向処理量は3,451千トン・同100.1%と見込んだ。乳製品向のうち、チーズ向は420千トン・同99.0%、生クリーム等向は1,209千トン・同98.7%、脱脂粉乳・バター等向は、1,821千トン・同101.4%となる見通し。

【前回見通し(1/31)公表】 生乳供給量は7,241千トン・前年比99.2%、飲用等向処理量は3,890千トン・同100.3%、乳製品向処理量は3,352千トン・同97.9%と見込んだ。乳製品向のうち、チーズ向は427千トン・同100.6%、生クリーム等向は1,231千トン・同100.2%、脱脂粉乳・バター等向は、1,693千トン・同95.7%。

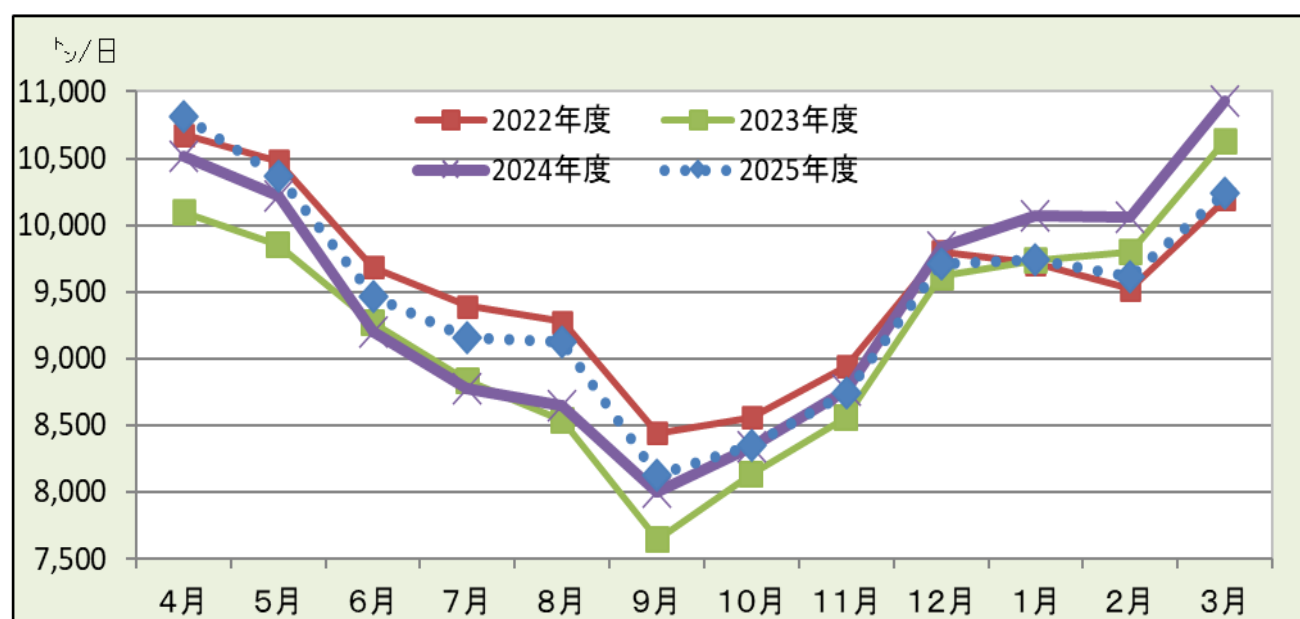
グラフ４－１：生乳供給量（日均量）



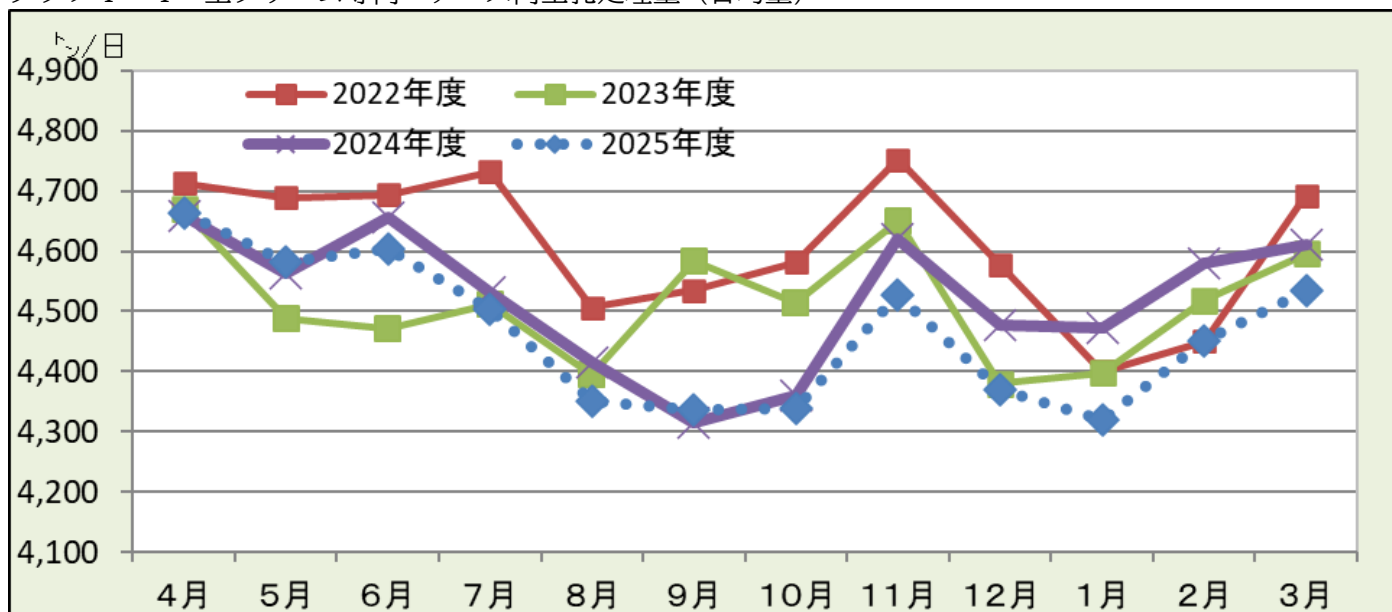
グラフ４－２：飲用等向生乳処理量（日均量）



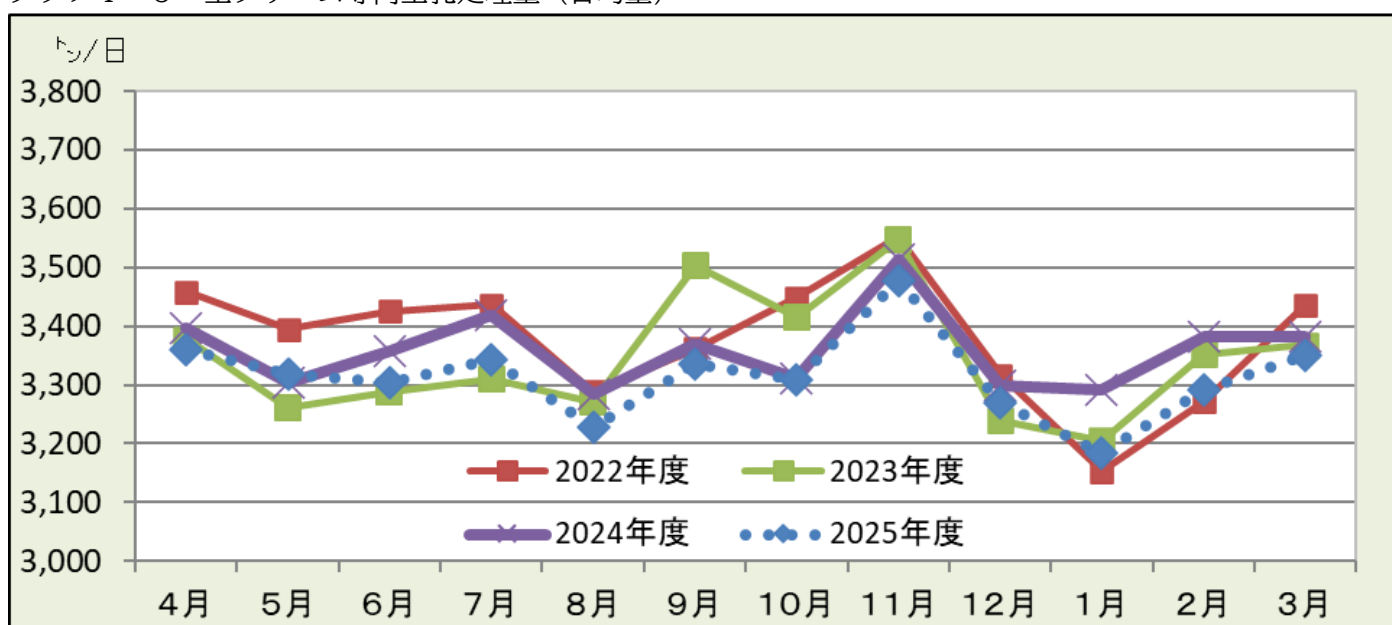
グラフ４－３：乳製品等向生乳処理量（日均量）



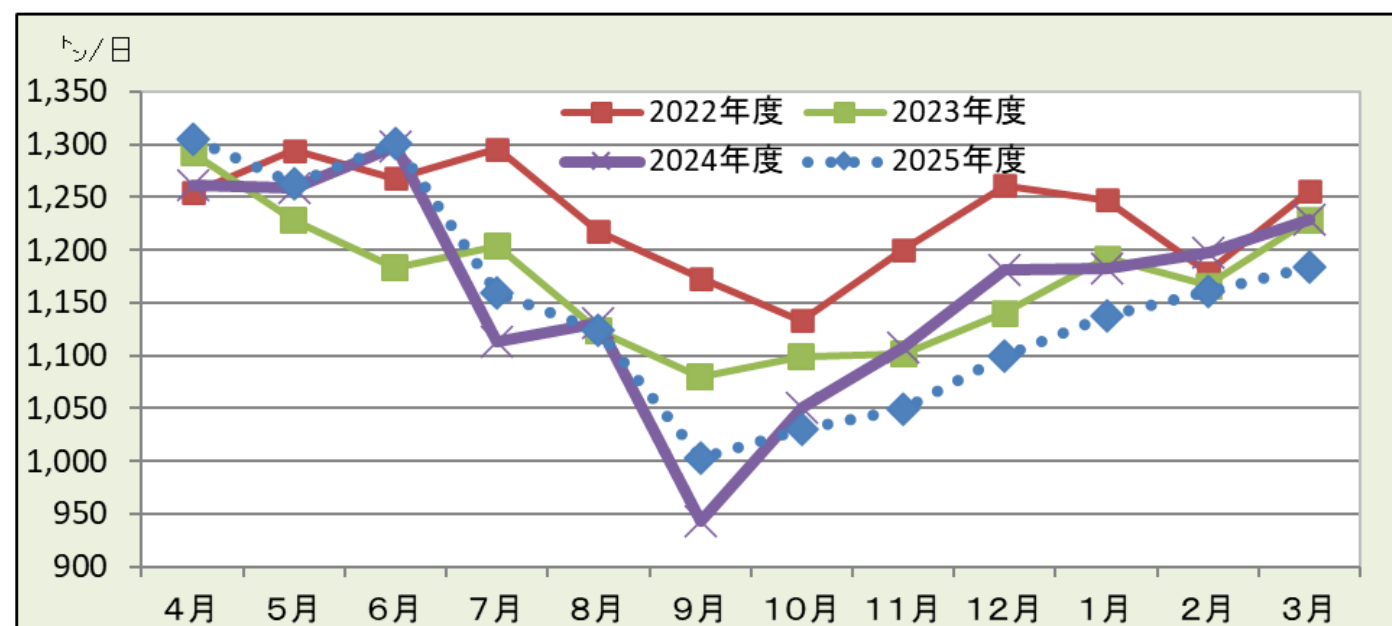
グラフ４－４：生クリーム等向・チーズ向生乳処理量（日均量）



グラフ４－５：生クリーム等向生乳処理量（日均量）



グラフ４－６：チーズ向生乳処理量（日均量）



5. 乳製品需給の動向

表5－1：2024年度の脱脂粉乳の需給（網掛け：実績）

（千トン）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	在庫対策を 除いた場合の 月数	D	前年比
第1 四半期	47.7	74.0%	41.5	104.5%	0.2	6.5	54.2	78.5%	4.0	5.2	35.2	99.6%
第2 四半期	54.2	78.5%	31.4	107.3%	0.1	-5.2	49.1	83.6%	3.6	4.8	36.6	92.1%
第3 四半期	49.1	83.6%	36.5	105.2%	0.0	1.4	50.5	100.7%	4.0	4.9	35.1	81.2%
第4 四半期	50.5	100.7%	45.1	103.3%	0.3	1.5	52.0	109.0%	4.1	4.9	43.8	94.4%
上期	47.7	74.0%	72.9	105.7%	0.3	1.3	49.1	83.6%	3.6	4.8	71.8	95.6%
下期	49.1	83.6%	81.6	104.1%	0.3	2.9	52.0	109.0%	4.1	4.9	78.9	88.0%
年度計	47.7	74.0%	154.4	104.9%	0.6	4.3	52.0	109.0%	4.1	4.9	150.7	91.5%

※月数は、当該期末在庫数量÷直近1年間の出回り数量実績の1か月平均値で計算

126.8 102.7%

在庫対策を除いた場合の出回り量
(対策無し通常需要)

表5－2：2025年度の脱脂粉乳の需給（見通し）

（千トン）

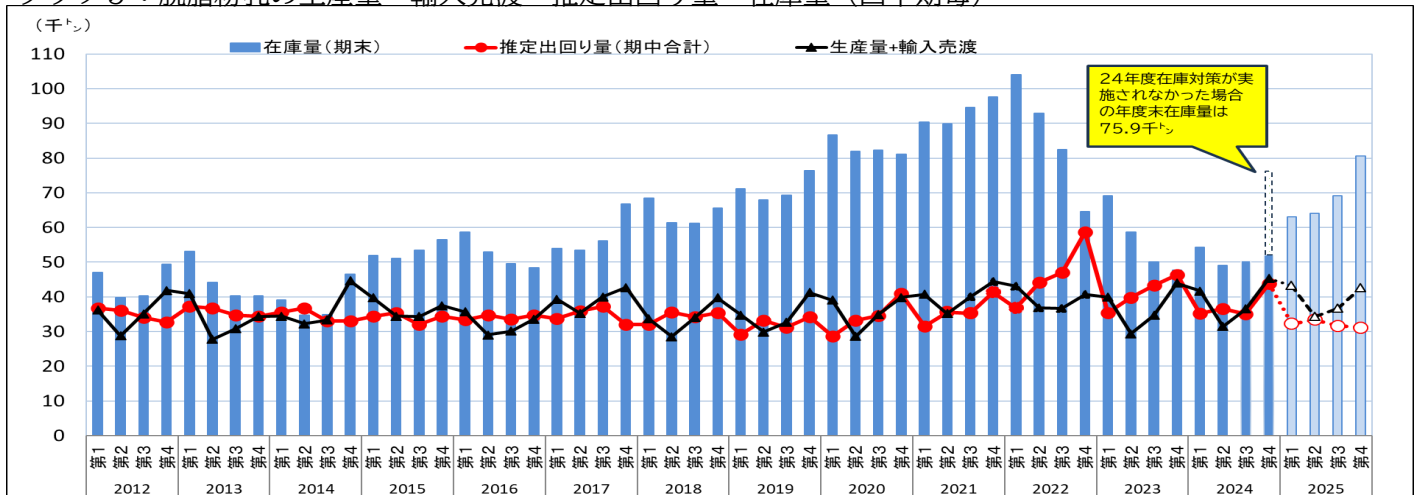
	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	在庫対策を 除いた場合の 月数	D	前年比
第1 四半期	52.0	109.0%	43.3	104.3%	0.1	11.1	63.1	116.3%	5.1	5.9	32.3	91.7%
第2 四半期	63.1	116.3%	34.1	108.7%	0.2	0.9	64.0	130.4%	5.3	5.9	33.4	91.3%
第3 四半期	64.0	130.4%	36.7	100.6%	0.0	5.1	69.1	136.9%	5.9	6.4	31.6	90.0%
第4 四半期	69.1	136.9%	42.2	93.6%	0.4	11.5	80.6	154.9%	7.5	7.5	31.1	71.0%
上期	52.0	109.0%	77.4	106.2%	0.3	12.0	64.0	130.4%	5.3	5.9	65.7	91.5%
下期	64.0	130.4%	78.9	96.7%	0.4	16.6	80.6	154.9%	7.5	7.5	62.7	79.5%
年度計	52.0	109.0%	156.3	101.2%	0.7	28.6	80.6	154.9%	7.5	7.5	128.4	85.2%

※月数は、当該期末在庫数量÷直近1年間の出回り数量実績の1か月平均値で計算

101.3%

在庫対策を除いた24年度出回り量との比較

グラフ5：脱脂粉乳の生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量（四半期毎）



【2025年度の脱脂粉乳需給の見通し】生産量156.3千トン・前年比101.2%、推定出回り量128.4千トン・同85.2%（2024年度の在庫対策数量を除いた値との比較は101.3%）となる見通し。輸入売渡し数量を0.7千トンと仮定すると、単年度ギャップは28.6千トンで、年度末在庫量は80.6千トン・同154.9%を見込む。

※：輸入売渡し数量は2025年度輸入枠(0.75千トン)から推定。TPP11、日EU・EPAによる民間貿易については考慮していない。

【前回見通し(1/31)公表】生産量は145.5千トン・前年比95.6%、推定出回り量は129.5千トン・同88.6%（前年度比は2024年度の対策数量を加味）。年度末在庫量は71.2千トン・同114.9%。

表5'-1：2024年度のバターの需給（網掛け：実績）

(千トン)

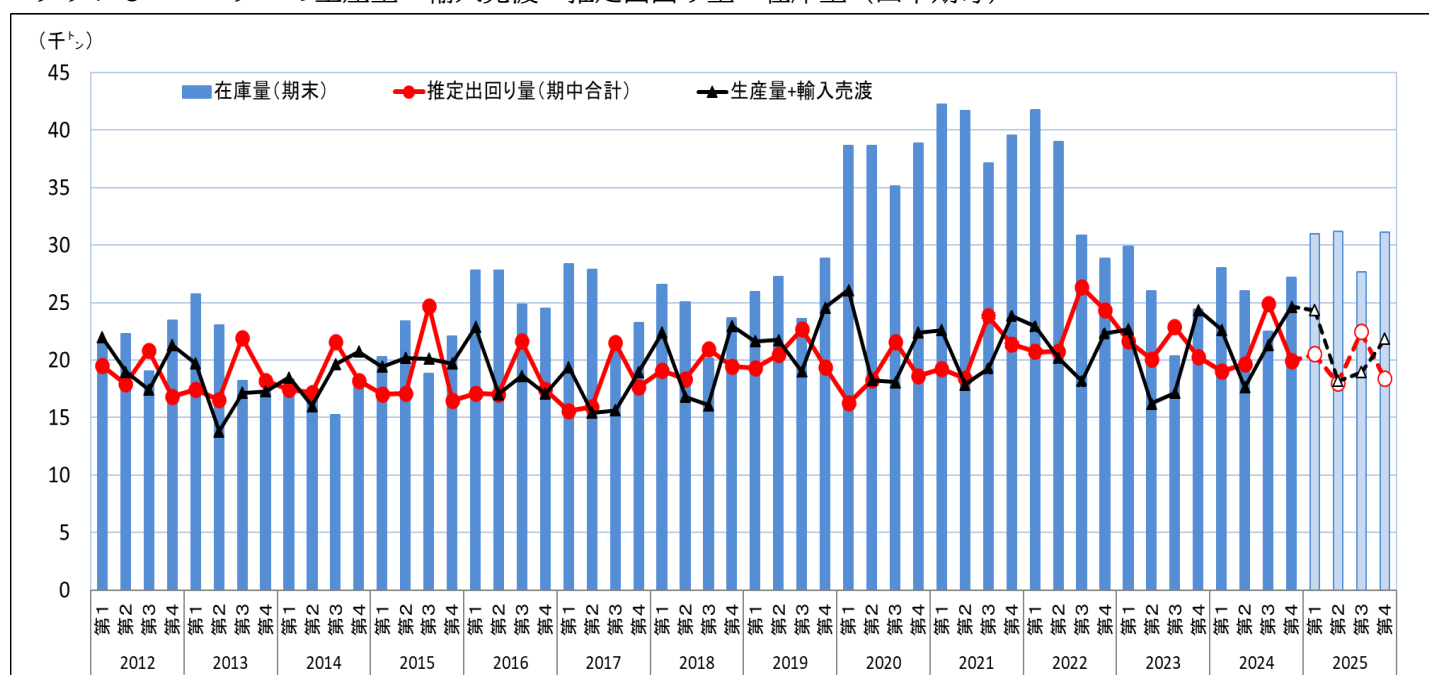
	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	D	前年比
第1 四半期	24.4	84.7%	19.7	103.7%	2.9	3.6	28.0	93.8%	4.1	19.0	88.0%
第2 四半期	28.0	93.8%	14.4	106.2%	3.3	-2.0	26.0	100.1%	3.8	19.6	97.7%
第3 四半期	26.0	100.1%	16.6	111.5%	4.7	-3.5	22.5	110.7%	3.2	24.9	108.9%
第4 四半期	22.5	110.7%	22.0	104.5%	2.7	4.7	27.2	111.2%	3.9	20.0	98.5%
上期	24.4	84.7%	34.1	104.7%	6.2	1.6	26.0	100.1%	3.8	38.7	92.7%
下期	26.0	100.1%	38.6	107.4%	7.4	1.1	27.2	111.2%	3.9	44.8	104.0%
年度計	24.4	84.7%	72.7	106.2%	13.6	2.7	27.2	111.2%	3.9	83.5	98.4%

表5'-2：2025年度のバターの需給（見通し）

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	D	前年比
第1 四半期	27.2	111.2%	20.7	105.0%	3.6	3.8	31.0	110.5%	4.4	20.5	107.7%
第2 四半期	31.0	110.5%	15.7	108.9%	2.5	0.2	31.2	119.7%	4.5	18.0	91.6%
第3 四半期	31.2	119.7%	16.7	100.6%	2.2	-3.5	27.7	123.0%	4.1	22.4	90.2%
第4 四半期	27.7	123.0%	20.6	93.6%	1.3	3.4	31.1	114.5%	4.7	18.4	92.2%
上期	27.2	111.2%	36.4	106.6%	6.1	4.0	31.2	119.7%	4.5	38.5	99.5%
下期	31.2	119.7%	37.3	96.6%	3.5	-0.1	31.1	114.5%	4.7	40.8	91.1%
年度計	27.2	111.2%	73.6	101.3%	9.6	3.9	31.1	114.5%	4.7	79.3	95.0%

グラフ5'：バターの生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量（四半期毎）



【2025年度のバター需給の見通し】 生産量 73.6 千トン・前年比 101.3%、推定出回り量 79.3 千トン・同 95.0%となる見通し。輸入売渡しを 9.6 千トンと仮定すると、単年度ギャップは 3.9 千トン、年度末在庫量 31.1 千トン・同114.5%を見込む。

※輸入売渡数量は 2024 年度および 2025 年度の輸入枠から推定した。TPP11、日 EU・EPA による民間貿易については、加味していない。

【前回見通し(1/31)公表】 生産量 68.1 千トン・前年比 95.6%、推定出回り量 79.8 千トン・同 94.7%、年度末在庫量 2.8 千トン・同 90.3%。

6. 都府県の生乳需給の動向

表6-1：2024年度の都府県の需給（網掛け：実績）

（千トン）

	生乳供給量		飲用等向 処理量		生クリーム等向・ チーズ向		A-B-C	移入量 (道外移出量)D		脱脂粉乳・ バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	278	100.1%	270	98.2%	5	95.7%	2	33	104.9%	34	125.8%
5月	282	100.5%	288	98.6%	5	94.9%	-11	38	100.1%	27	128.0%
6月	262	100.3%	290	100.1%	5	93.0%	-32	45	97.7%	13	97.6%
7月	249	97.0%	283	97.9%	5	96.4%	-39	51	99.3%	12	86.3%
8月	238	97.0%	273	99.6%	5	99.0%	-39	52	107.4%	13	82.8%
9月	233	97.6%	286	98.6%	4	94.0%	-57	63	104.2%	6	125.5%
10月	250	98.5%	295	100.4%	5	86.5%	-49	57	107.0%	8	91.4%
11月	246	99.7%	275	101.0%	5	97.1%	-34	44	109.0%	10	102.6%
12月	258	98.9%	264	100.1%	6	97.6%	-12	38	108.5%	27	99.7%
1月	265	99.4%	271	100.2%	5	102.6%	-11	39	108.8%	28	103.7%
2月	245	95.6%	255	97.1%	5	100.5%	-14	35	105.6%	21	91.3%
3月	281	99.6%	270	101.2%	6	100.3%	5	34	116.0%	39	100.9%
第1四半期	822	100.3%	849	99.0%	15	94.6%	-42	116	100.4%	75	120.5%
第2四半期	720	97.2%	842	98.7%	14	96.5%	-136	167	103.6%	31	90.0%
第3四半期	754	99.0%	834	100.5%	15	93.9%	-95	140	108.0%	44	98.8%
第4四半期	791	98.3%	796	99.5%	15	101.1%	-20	109	109.9%	88	99.3%
上期	1,542	98.8%	1,691	98.8%	29	95.5%	-178	283	102.3%	105	109.7%
下期	1,545	98.6%	1,629	100.0%	31	97.3%	-115	248	108.8%	133	99.1%
年度計	3,087	98.7%	3,321	99.4%	60	96.4%	-293	531	105.2%	238	103.5%

表6-2：2025年度の都府県の需給（見通し）

（千トン）

	生乳供給量		飲用等向 処理量		生クリーム等向・ チーズ向		A-B-C	移入量 (道外移出量)D		脱脂粉乳・ バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	277	99.8%	272	100.6%	5	98.0%	-0	36	109.0%	35	102.6%
5月	279	98.7%	289	100.2%	5	100.0%	-15	42	110.3%	27	98.9%
6月	258	98.3%	292	100.7%	5	100.0%	-39	52	113.6%	13	96.5%
7月	248	99.7%	285	100.7%	5	100.0%	-42	56	108.6%	14	114.1%
8月	237	99.8%	266	97.5%	5	100.0%	-33	49	93.0%	16	121.5%
9月	234	100.1%	284	99.2%	4	100.0%	-55	64	101.0%	9	153.1%
10月	245	98.2%	290	98.4%	5	100.0%	-49	58	101.8%	9	117.6%
11月	240	97.3%	268	97.2%	5	100.0%	-33	45	102.0%	12	117.7%
12月	251	97.6%	258	97.9%	6	100.0%	-12	40	105.3%	28	104.7%
1月	256	96.7%	264	97.4%	5	100.0%	-13	40	103.0%	28	97.6%
2月	237	96.8%	249	97.9%	5	100.0%	-17	36	100.4%	19	88.3%
3月	270	96.1%	267	99.1%	6	100.0%	-3	36	105.8%	33	83.6%
第1四半期	813	98.9%	853	100.5%	15	99.3%	-55	129	111.2%	75	100.2%
第2四半期	719	99.9%	835	99.1%	14	100.0%	-130	168	100.8%	38	124.6%
第3四半期	736	97.7%	816	97.8%	15	100.0%	-95	144	102.8%	49	109.8%
第4四半期	763	96.5%	781	98.1%	15	100.0%	-33	112	103.0%	79	89.2%
上期	1,532	99.4%	1,688	99.8%	29	99.6%	-185	298	105.1%	113	107.3%
下期	1,500	97.1%	1,597	98.0%	31	100.0%	-128	255	102.9%	128	96.1%
年度計	3,032	98.2%	3,285	98.9%	59	99.8%	-312	553	104.1%	241	101.1%

【2025年度都府県の生乳需給の見通し】生乳供給量は3,032千トン・前年比98.2%、飲用等向処理量は3,285千トン・同98.9%となる見通し。北海道から都府県への移入量(道外移出量)は、553千トン・同104.1%となる見通し。

【前回見通し(1/31)公表】生乳供給量は3,033千トン・前年比98.3%、飲用等向処理量は3,328千トン・同100.2%、道外移出量は、592千トン・同111.2%。

7. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

2024 年度の生乳生産量は、都府県が 3 年連続で前年水準を下回ったものの北海道では 3 年振りに前年水準を上回り、全国ベースでも 3 年振りに前年水準を上回った。北海道においては乳牛の個体乳量が増加していることなどを背景に、2025 年度に入ってから生産量の増加が続いている。こうした中で、2025 年 6 月には乳製品向け乳価、8 月には飲用等向け乳価の引き上げが予定されており、酪農経営の収支改善への効果が期待される。

一方、牛乳類の需要面は依然として苦戦が続いている。家庭における牛乳消費量は 2024 年度下半期以降、前年並みで推移しているものの成分調整牛乳や乳飲料は前年割れが続く、牛乳類全体も前年割れとなっている。

こうした需給環境の中、冬休み・春休み・ゴールデンウィークなど学校給食用牛乳の供給が一時的に停止する期間には、生乳需給が大きく緩和する状況となり、特に本年 3 月の脱脂粉乳・バター等向け乳量は、コロナ禍で需給が大きく緩和した 2021 年度の水準を上回り、過去 10 年間で最も多い水準となった。生乳生産量は 5 月にピークを迎え、6 月以降は減少傾向になると見込まれるが、乳価改定に伴い製品価格の引き上げが行われることを踏まえ、需要への影響も想定しておく必要がある。先行きが不透明な中で、生乳需給に係る課題への対応については、状況変化を的確に捉え、適時適切な情報発信を行うとともに、下記に挙げる課題に対して柔軟かつ迅速な対応が重要となる。

(1) 需給変動への対応

生乳生産量は、北海道などの一部地域では増加傾向で推移しているものの、全国的には 2 歳以上の乳牛頭数は減少基調で推移している。現状は、個体乳量の増加が頭数の減少を上回っているため、生産量全体としては増加傾向が続いているが、夏季の気温や粗飼料の収量・品質が変動すると下期以降の個体乳量に影響が及ぶ可能性がある。また、都府県における生乳生産量は減少が続いており、今年度は 4 年連続で前年を下回る見通しである。これらを踏まえると、夏季の飲用需要期における生乳の安定供給に向けた対策の重要性はますます高まっている。酪農乳業関係者は、製品価格改定による需要への影響などを注視しつつ需給情報の綿密な共有を図り、広域流通体制等の活用によるきめ細かな配乳調整を推進することが求められる。また、酪農生産現場においては暑熱対策をはじめとした適切な飼養管理等が不可欠である。

加えて、生乳の流通面では、いわゆる「物流 2024 年問題」により、ドライバー不足の懸念がある。このため、輸送ロットの大型化や荷待ち時間削減等の取り組みに加え、特に広域流通量が多くなる需要期での計画的な集荷配送の体制整備が必要である。

今年度下半期には、上半期以上に 2 歳以上の乳牛頭数の減少が見込まれるが、乳価改定に伴う牛乳乳製品の値上げによって牛乳類の消費減退も予想され、生産・消費双方の先行きは不透明である。とりわけ、年末年始や年度末といった学校給食が休止する時期には、一時的に生乳需給が大きく緩和する。昨年度の同時期、本年度のゴールデンウィーク期間においては乳製品工場の最大稼働に加え、市乳工場も含めた配乳調整が行われたことで、大きな混乱は回避されたものの、冬季の不需要期においても、牛乳類の販売促進活動や理解醸成活動の強化などの取り組みを業界全体で行うことが不可欠である。

さらに、需給変動に迅速に対応するための保険的制度として、2025 年度から「酪農乳業需給変動対策特別事業」を開始した。将来にわたり持続的かつ安定的な産業の発展を下支えすることを目的としているため、地域や取引先を問わず全国の関係者が本事業に参画することにより、乳製品の過剰在庫の発生を防ぎ、需給変動の影響を最小限にとどめることが肝要である。事業の運用に当たっては適切な判断が求められるため、中期的な需給動向や在庫数量の推移を注視した上で議論を行うことが重要となる。

(2) 国産牛乳乳製品の需要拡大に向けて

酪農乳業を持続可能な産業として継続・発展させていくためには、牛乳乳製品の安定的な消費の確保が不可欠となる。乳価の引き上げ後においても、牛乳乳製品の消費を維持・拡大していくためには、これまで以上に需要拡大に向けた積極的な取り組みが求められる。

そのためには、より多くの酪農乳業関係者に対し需要拡大の必要性を訴え、課題意識を共有することで業界の

一体感を高めた取り組みが重要となる。その上で、子どもとその保護者、若年層や高齢者層、インバウンドなど各ターゲット層に応じた効果的な訴求方法を検討し、スーパーやコンビニ、牛乳販売店、乳業等の流通・販売業者による販売促進活動と連携し、実需につながる具体的な取り組みをどのように展開していくかについて、関係者間での議論をさらに深める必要がある。

（３）脱脂粉乳・バターの需給不均衡の改善

生・処（生産者・乳業者）が協調して進めてきた在庫対策の効果もあり、脱脂粉乳の在庫は需要の４か月程度の水準で推移し、2024年度末在庫量は52千トンを着地した。一方、対策数量を加味しない実需ベースでは、引き続き需要量が供給量を大きく下回っている。４月以降の脱脂粉乳の出回り数量の動向は不透明で注視する必要があるものの、今年度期中の乳価改定により消費が減退した場合、脱脂粉乳の在庫量が想定以上に積み増す懸念がある。

一方、国産バターについては、依然として単年度の需要量が国内生産量を上回る状況が続いているが、生乳生産量や消費の動向等によっても在庫水準は左右されることになる。このような中で、生乳生産基盤の維持・強化を図るためには、脱脂粉乳とバターの需要不均衡の構造的な課題解決に向けた取り組みが喫緊の課題である。需給ギャップの解消に向けて、特に無脂乳固形分（SNF）を活用した新たな製品の需要創出・拡大に向けた施策の推進が求められる。

（４）生産基盤の強化・維持に向けて

資材価格や人件費などの生乳生産コストが上昇する中、生産者を取り巻く事業環境は依然として厳しい状況が継続している。国内需要に最大限応え生乳の安定供給を実現するためにも、酪農乳業界において生産基盤の維持・強化に向けた必要な取り組みについて継続的に議論を深め、具体的な対策を検討することが肝要である。

本年４月に策定された新たな「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」（酪肉近）では、2030年度の生産数量目標が現行水準並みの732万トン、その後の長期的な姿の生産数量目標が前回酪肉近並みの780万トンと掲げられた。方針では、業界をあげた需要拡大の成果を毎年評価しながら、さらなる生産拡大の必要性を検証する内容となっているため、（２）で触れた需要拡大の取り組みを着実に進めるとともに、生産基盤の維持・強化についても積極的に検討する必要がある。

また、昨年、四半世紀ぶりに改正された新しい食料・農業・農村基本法では、食料安全保障が基本理念の中核として位置付けられている。これを踏まえ、国産生乳の安定供給という役割に加えて、農地の維持や国土保全に貢献する酪農乳業の社会的意義についても改めて啓発する必要がある。その上で、産業として将来にわたり安定的かつ持続的に発展していくためには、牛乳・乳製品の価値や酪農乳業の存在意義を消費者に対して丁寧に伝えていく取り組みを引き続き強化していくことが求められる。